



**AGC 株式会社**

ESG 説明会

2023 年 9 月 4 日

## イベント概要

---

[企業名] AGC 株式会社

[企業 ID] 5201

[イベント言語] JPN

[イベント種類] アナリスト説明会

[イベント名] ESG 説明会

[決算期]

[日程] 2023 年 9 月 4 日

[ページ数] 30

[時間] 17:00 – 18:07  
(合計：67 分、登壇：37 分、質疑応答：30 分)

[開催場所] インターネット配信

[会場面積]

[出席人数]

[登壇者] 3 名  
代表取締役 兼 副社長執行役員 CFO 宮地 伸二 (以下、宮地)  
常務執行役員 経営企画本部長 村野 忠之 (以下、村野)  
広報・IR 部長 小川 知香子 (以下、小川)

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## 登壇

小川：皆様、こんにちは。本日はご参加いただき、ありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより、AGC 株式会社、2023 年 ESG 説明会を開始いたします。

本日、司会を務めます、広報 IR 部の小川でございます。よろしくお願いいたします。

本日の出席者をご紹介します。代表取締役、副社長執行役員 CFO、宮地伸二。常務執行役員、経営企画本部長、村野忠之。以上、2 名でございます。

初めに、CFO の宮地より、長期経営戦略、2030 年のありたい姿について説明いたします。そのあと、サステナビリティ経営の推進に関して、村野より説明いたします。最後に、質疑応答とさせていただきます。終了は、18 時ちょうどを予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。それでは宮地さん、お願いいたします。

### 2030年のありたい姿



- 社会的価値と経済的価値の両立により成長

独自の素材・ソリューションの提供を通じてサステナブルな社会の実現に貢献するとともに継続的に成長・進化するエクセレントカンパニーでありたい



©AGC Inc.

4

宮地：宮地でございます。よろしくお願いいたします。さっそくですけれども、4 ページをお願いします。

AGC は、素材業ということもありまして、施策を考え、その施策に沿って結果を出すというのが、やはり、かなり時間を要するということもありまして、常に 10 年分ほど先を、まずどうある

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



べきかということを検討し、それからバックキャストした形で、3年の中計を回す。それをまた1年の予算で回していくというやり方を、このところずっとやっております。

今の、2030年のありたい姿ですけれども、この下にありますように、企業価値の向上ということで、社会的価値と経済的価値を両立させようということでございます。上に書いてありますように、独自の素材・ソリューションの提供を通じてサステナブルな社会の実現に貢献するとともに経済的に成長・進化するエクセレントカンパニーでありたい、と標ぼうしております。

サステナブルな社会の実現に貢献するとともに、と書いてありますが、正確には、やはりサステナブル社会の実現に貢献することは、すなわち AGC の経済的価値の向上にもつながって、エクセレントカンパニーになっていくという意味でございます。

経済的価値の創出を無視して社会的価値の創出ということは、やるつもりはございませんので、あくまでも、社会的価値の創出が経済的価値にもつながっていくと考えております。

## 事業ポートフォリオ変革の方向性

AGC  
Your Dreams, Our Challenge

- 両利きの経営の推進により、市況変動に強く、資産効率・成長性・炭素効率の高い事業ポートフォリオの構築を目指す



©AGC Inc.

6

めくっていただいて、6 ページです。このためにわれわれは、大きく今、事業ポートフォリオの変革というのをやっております、その方向性というのは、四つの視点が大事だと考えています。

ここに書いてある四つの視点ですけれども、市場変動に強い、高い資産効率を持っている、あるいは高い成長率、最後は ESG にもつながる大事なところなんですけれども、高い炭素効率を目指していこうということで、この四つの視点で、会社全体のポートフォリオを徐々に、こういった方向にシフトさせていきたいと思っております。

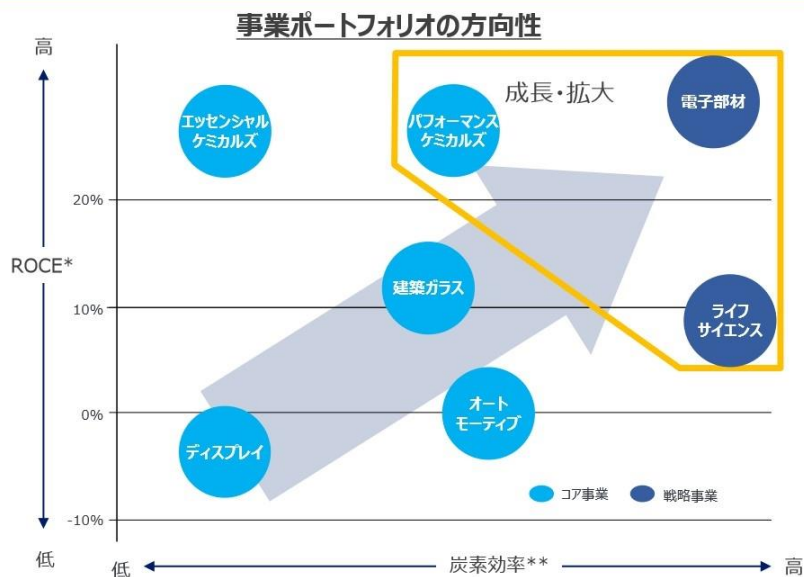
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally

3

# 事業ポートフォリオ変革の方向性（炭素効率・資産効率）



\*2022年ROCEをもとに作成

\*\*2022年売上高あたりの2021年排出量をもとに作成

©AGC Inc.

7

次、行ってください。これ、非常に大事なグラフになるんですけども、このグラフは、各事業を、このROCEという、そういう意味では、資産の効率性を縦軸にとり、横軸に炭素効率をとったものでございます。

理想的には、この炭素効率もよくて資産効率も高い、一番右上の事業が優れた事業ということになりますが、会社全体で、この右上のほうに全体が行くようになっていきたい、ということです。

そのためには、もともと炭素効率が高い、あるいは資産効率性のよい事業、こういった成長事業をさらに拡大していくことが必要になります。

これは一つのポートフォリオの大事な点なんですけれども、もう一つ忘れてはいけないのは、このエッセンシャルケミカルズ、建築ガラス、オートモーティブ、ディスプレイといったところですね。これらの事業は、非常にアセットも大きくて、実際には売上のかなり大きな部分を、こういった事業が占めています。

この事業の改善なくして、ポートフォリオ全体には持ち上がっていきませんので、こういったエッセンシャルからこの左にある事業を、より収益性を高め、炭素効率を高めていくことが、非常に重要なポイントとなります。

ということで、成長している事業を伸ばすだけではなくて、いわゆるコア、これまで長い間やってきた大きなポーションを占めるこの事業についても、この2軸できちっと右のほうに上げていきたい、ということでございます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## 事業ポートフォリオ変革のイメージ

- 炭素効率、資産効率の高い戦略事業が順調に拡大
- 2030年までに戦略事業の利益が全社の50%超となり、ポートフォリオ転換がより顕著に



©AGC Inc.

8

8 ページ、私の最後のスライドになりますが、こういったことをやることによって、営業利益の構成も、やはり変化させていきたいということです。

直近、これまでこのポートフォリオ転換というのに取り組んで、だいぶ時間がたっておりますけれども、昨年まではこの濃い青の部分が、いわゆる戦略事業という部分は順調に伸びてきて、非常にいい感じで来たんですけども、23年は残念ながら、ライフサイエンス、特にバイオが少し今、難しい状況でございます。少し足踏みしますが、再び来年以降、成長軌道に戻せると思っておりますので、この2025年、あるいは2030年においては、半分以上は、こういった新しい事業分から利益が出るという構造に、会社全体を変えていきたいと考えております。

以上、私の説明です。どうもありがとうございました。

**村野**：それでは続きまして、サステナビリティ経営の推進につきまして、経営企画本部の村野からご説明させていただきます。よろしく申し上げます。

今、説明のありました事業ポートフォリオ変革と連携して進めていくのが、サステナビリティ経営の推進になります。今回は、ESG という順番で、AGC グループの取り組みをご説明させていただきます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 気候変動関連の機会とリスクについてTCFDの枠組みに沿ったシナリオ分析を実施、  
機会の獲得およびリスクの低減に向けた経営戦略や事業計画を策定

			機会・リスク		
			発生時間軸	短期	中期
<b>2℃未満</b>					
⚠ 移行リスク	政策・法規制	炭素価格の上昇	●	●	
	評判	顧客からのGHG排出量削減要求		●	
	技術	自家発電設備のGHG排出量削減		●	
📈 機会	製品サービス	建築物リノベーション市場の拡大	●	●	
		太陽光発電市場の拡大	●	●	
		水素関連市場の拡大		●	●
		EV・FCV市場の拡大		●	●
		次世代冷媒・溶剤市場の拡大		●	●
<b>4℃</b>					
🌪 物理リスク	急性	突発災害			●
	慢性	水ストレス			●
		気温上昇			

©AGC Inc.

11

それでは、11 ページ目、お願いします。まずは、ESG の E のところですが、ここにつきましては、気候変動関連を中心として、その機会とリスクについて、TCFD の枠組みに沿ったシナリオ分析を進めて、その機会の獲得およびリスクの低減に向けた経営戦略や事業計画を策定しております。

そちらに書いてあるとおりの機会、リスクを、AGC グループとして主要な課題を取り上げて、経営戦略に織り込んでいるということになります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

- 2021年に中長期のGHG排出量削減目標を策定し、着実に推進



\*電力排出係数は、IEAが公表したSustainable Development Scenarioをベースにしています。

©AGC Inc.

12

次のページ、お願いします。AGCはエネルギー産業ですので、一番の大きな課題、Eのところでの課題は、リスクとしてはCO<sub>2</sub>、GHG排出量の削減ということになります。

これは、中期経営計画で発表させていただいておりますけれども、2050年までに、カーボン・ネットゼロ、Scope 1+2のところですが、これを実現。

そのマイルストーンといたしまして、2030年にはScope 1、2で、排出量で30%削減。それから売上高原単位では50%削減。併せて、Scope 3につきましても、排出量を30%削減。これは2019年対比となりますが、こうした目標を策定して、各事業に取り組んでいるということになります。

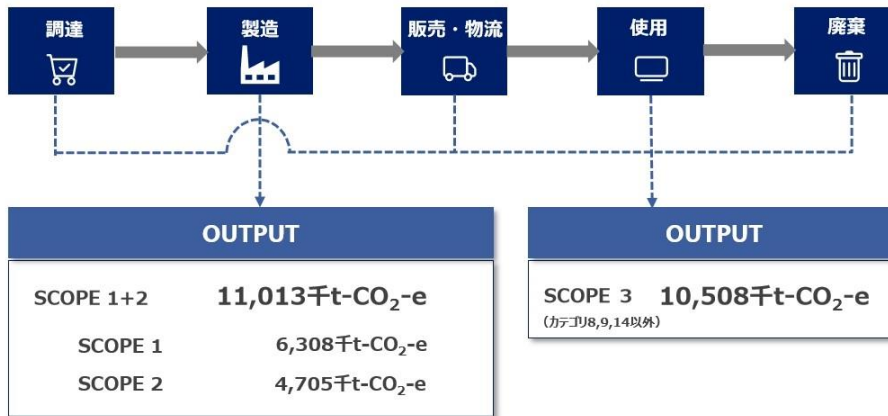
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



## ScopeごとのGHG排出量内訳 (2022年)

- 2022年GHG排出量はScope 1,2で11,013千t-CO<sub>2</sub>-e、Scope 3で10,508千t-CO<sub>2</sub>-e



次のページ、お願いします。具体的にこちらにあるのが、2022年のAGCグループのGHG排出量になります。

左の下のほうに、Scope 1+2、右側の方に Scope 3、われわれが選定しているカテゴリがありますが、それぞれ Scope 1+2 が約 1,100 万トン、それから Scope 3 につきましては 1,050 万トンというのが、排出量としての 2022 年の実績になります。

## ご参考： GHG排出量削減の進捗

- 2022年は2019年対比でGHG排出量が約5%、売上高原単位は約30%を削減



### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

次のページ、お願いします。2019 年対比での進捗です。

2022 年は、排出量としては 5%削減、売上高原単位としては約 30%削減という進捗になっております。既存事業の排出の削減はもちろんですが、先ほどのポートフォリオ変革でご説明させていただきましており、炭素効率のいい事業が拡大してきました。

例えば、エレクトロニクス、ライフサイエンスと、事業が拡大、成長してきたことで、売上高原単位が順調に削減されているというのが、2022 年の進捗でございます。

## △ 移行リスク フロートガラス溶解窯におけるGHG排出量削減技術ロードマップ

- 2030年に向けて、欧米では電化、アジアでは省エネを優先して進める計画
- 2050年に向けては、電化を中心に複数の技術を組み合わせて、目標達成を狙う
- 本ロードマップは、グローバルプロジェクトにおいてレビューし精査中



\*通電補助加熱 \*\*アンモニア、水素など

©AGC Inc.

15

それでは、次のページ、15 ページ目で、Scope 1+2 の排出の、一つの主要な課題である、ガラス関連。特に板ガラスのフロートガラスを生産する工程である、フロートガラス溶解プロセス、溶解窯と呼んでおりますが、ここの GHG 排出量のロードマップについて、ご説明させていただきます。

下の中に、技術ロードマップがあります。これ非常に複雑になっておりますけれども、ポイントといたしましては、地域によって電力係数、それから各国政府の施策も異なるということもあります。それから AGC グループは、日本、欧米、アジアで複数のこういった設備を展開しておりますので、各地域、それから技術の進展をベストミックスさせることで、2030 年の目標、それから最終的には、2050 年のネットゼロを目指していくというシナリオを書いております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

特にこの中では、ポイントといたしましては、電気ブースターの導入、それからクリーン燃料の実証実験。また、この先になりますけれども、カーボンリサイクルといった技術を組み合わせることで、目標を達成していきたいと考えております。

このクリーン燃料の実証実験につきましては、本年も日本国内で、NEDO の委託事業としてアンモニアの実証実験の発表させていただいておりますが、6月に実証実験が成功し、これからますます進めていくという状況でございます。

ご参考：

## フロートガラス溶解窯におけるGHG排出量削減 グローバルプロジェクト

- 2050年カーボン・ネットゼロ目標達成のためには、窯の寿命も踏まえ、2030年には量産を想定した要素技術の開発・実証実験が必要
- CTOが直轄するグローバルプロジェクトを発足し、経済合理性を踏まえGHG排出量削減戦略を検討



### プロジェクトでの検討内容

- 2050年に至るまでの各国におけるエネルギー価格、炭素コストなどの将来コストシミュレーションの実施
- 将来コストシミュレーションをもとに、要素技術における量産化の経済合理性を検証
- 要素技術開発の優先順位・絞り込みを行い、AGCグループにおけるグローバルでの技術展開など、全体の技術実装戦略を策定

©AGC Inc.

16

次のページをお願いします。こうしたフロートガラスのGHG削減の取り組み、このいくつかの事例について、いくつかのページでご説明します。

一つ目が、先ほどお話しさせていただいたとおり、AGCグループはグローバルにガラス事業を展開していますので、各地域、グローバルでのプロセスの状況、それから各地域での特徴、技術の発展を組み合わせることで、他社にはないような、差別化されたプロセスを開発していきたいと考えております。そのために、グローバルプロジェクトとして、CTOが直轄する形でプロジェクトを開始しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ご参考：

## サンゴバン社との共同開発により業界の脱炭素化に貢献

**AGC**  
Your Dreams, Our Challenge

- サンゴバン社と板ガラス製造プロセスにおけるGHG排出量削減を目的とした共同開発を開始
- 電気溶融比率を向上させるとともに酸素燃焼を組み合わせる画期的な新プロセス(窯)の実証実験を2024年下期に開始



## 新たなイノベーションを創造し 板ガラス業界の脱炭素化を加速

©AGC Inc.

17

次のページをお願いします。いくつかの事例をご紹介します。

一つは、ガラスメーカーのグローバルのトップ企業同士でのコラボレーションになります。欧州の主要ガラスメーカーである、サンゴバン社、それから AGC がコラボレーションすることで、今までにないような、画期的なプロセスの実証実験を 2024 年の下期から開始すると。

本件につきましては、発表させていただいておりますけれども、今までにないような取り組みでイノベーションを創造して、板ガラス業界の脱炭素化を加速したいと考えております。

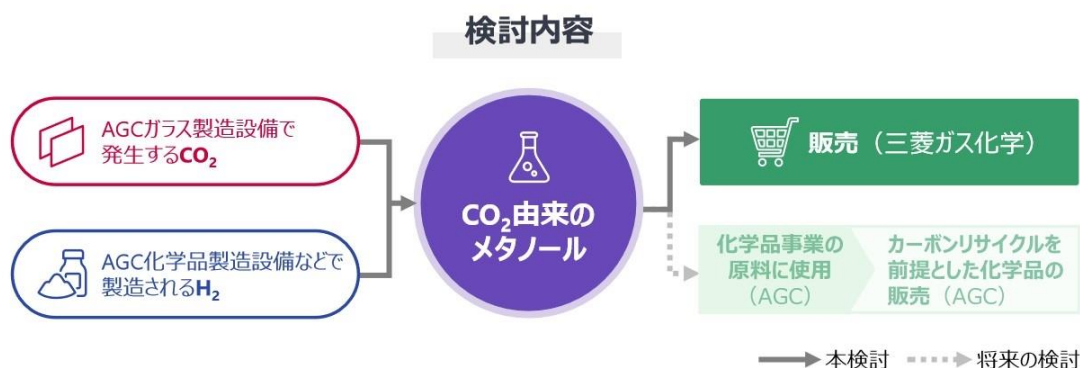
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

## ご参考：CCU技術\*の活用 ガラス製造時発生CO2のリサイクルを検討開始

- 三菱ガス化学社と共同で、板ガラス製造プロセスで発生するCO2を原料としたメタノールの製造・販売を検討開始
- 将来的には、ガラス製造時に発生するCO2を化学品事業の原料として社内カーボンリサイクルにつなげていくことを検討中



\*CO2を回収・利用する技術

©AGC Inc.

18

同じように、次のページでは、これは先ほどお話ししました、CCUですね。排出したCO2を回収、利用する技術ですが、CCU技術の活用につきましても、三菱ガス化学社と共同での製造・販売の検討を開始しております。

具体的には、ガラス製造工程で発生するCO2、およびAGCグループの化学品製造設備などで製造される水素を組み合わせることで、三菱ガス化学社と連携し、CO2由来のメタノールを生産して、これを資源、それから材料として活用していくという取り組みになります。

まだまだ先の長い話ではありますが、こうした取り組みによって、2030年、それから2050年に向けたCO2削減を具体的にしていきたいと考えております。

ここまでの、リスクについてのご説明になります。

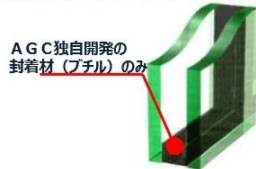
### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## ■ 真空断熱ガラス、建材一体型太陽電池など、環境対応型新製品を多数開発

### サーモクライン®

AGC独自開発の材料を使用、高耐久・高寿命・高断熱性に加え、リサイクルの簡易化を実現



### 真空断熱ガラス「FINEO™」

世界最高クラスの断熱性能と高耐久性を実現  
欧州のリノベーション需要に対応



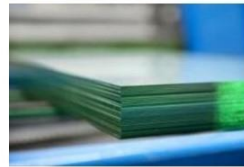
### BIPV\*

ガラス間に発電セルを封入した建材一体型太陽電池



### Lowカーボンガラス

製品ライフサイクルにおけるGHG排出量を大幅に低減



\*Building Integrated Photovoltaics ●: GHG排出量削減に貢献する製品 ●: 循環型社会に貢献する製品 ●: GHG排出量を削減した製品

©AGC Inc.

19

その次のページ、19 ページ目で、この機会についても簡単にご紹介させていただきたいと思えます。

CO2 につきましては、もちろんガラス製造過程での発生といったものはありますが、同時に、ここにあるような省エネのガラス、もしくは省エネ技術を使うことで、住宅や建物から発生するCO2 を大きく削減できるということが分かってきております。

こうした技術に対応できる真空断熱ガラス、建材一体型太陽電池など、環境対応型の新製品を多数開発し、一部上市して、事業を拡大させていこうと考えております。

具体的には、複層ガラスである左上のサーモクライン、それから真空断熱ガラスの FINEO、左下は、ガラスと太陽電池のセルを一体化したビルの側面にも使える BIPV、右下では、ガラスを生産するときに CO2 の発生、もしくはプロセス全体での CO2 発生を削減する Low カーボンガラスといったものの新製品を開発し、上市しております。

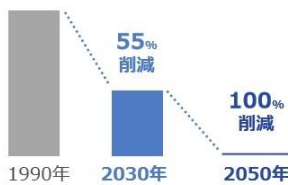
## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

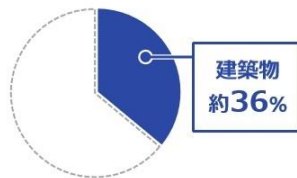
## 建築物リノベーション市場の拡大

- 欧州委員会は2030年までに欧州のGHG排出量を55%削減する目標を発表\*
- GHG排出量のうち建築物からの排出が約36%を占め、2030年までに3,000万-3,500万棟(既存G評価建築物、既存建築物の15%相当)がリノベーション対象\*\*
- 建築物のエネルギー性能向上が不可欠であり、**高断熱ガラス市場が拡大**

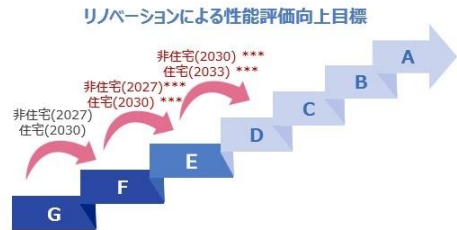
### 欧州GHG排出量削減目標\*



### GHG排出量割合\*



### 建築物のエネルギー性能評価\*\*



\* 欧州委員会「グリーン・ディール」,「リノベーション・ウェブ戦略」

\*\* 欧州委員会「Energy Performance of Buildings Directive」(建築物のエネルギー性能指令)

\*\*\* 現在提出されている改正案における改善目標 ©AGC Inc.

次のページをお願いします。同じく機会ですが、これもまた建築用ガラスに関する機会です。

欧州では建築用ガラス、もしくは窓のリノベーションという動きが加速しております。ここに記載のとおり、欧州委員会は、2030年までに欧州のGHG排出量を55%削減する目標を発表しており、具体的には、その中で建築物からの排出が36%を占めているということもあって、2030年までに、欧州の既存の建物3,500万棟ぐらいの建物をリノベーションの対象とすると。具体的には、エネルギー効率の悪い建物を、エネルギー効率のいい形に変えていくという施策を発表しております。

AGCグループに関して言いますと、建築物のエネルギー性能向上が不可欠であり、その一つの大きな鍵である高断熱ガラスの市場が、今後、継続的に拡大していくという想定をしております。

そのシステムにつきましては、その下に記載のとおりですが、右下にあるとおり、欧州につきましては、建築物の性能評価というのが導入されております。下のGグレードから徐々に上げていくといった規制、もしくは補助金といった施策がとられておりまして、普通のガラスを高断熱ガラスに替えていくということが、大きく期待されている動きになります。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

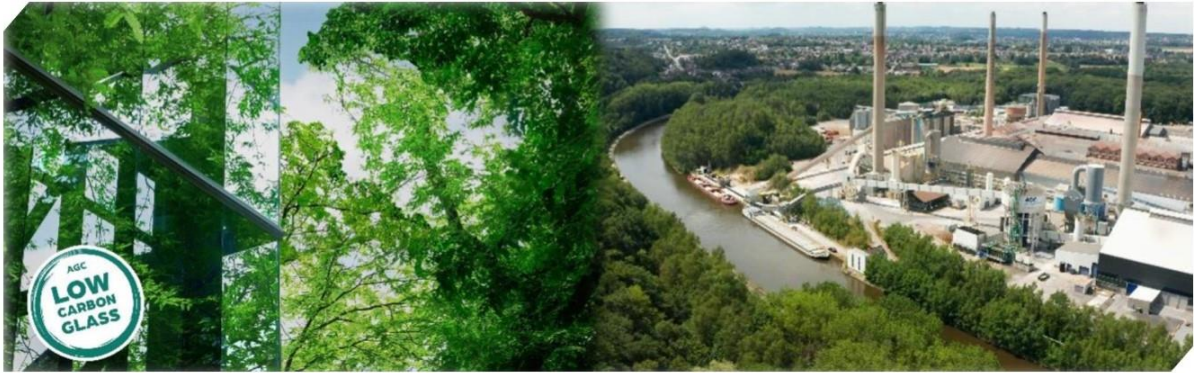
ご参考：

## カーボンフットプリントの少ない製品へのニーズが高まる

AGC  
Your Dreams, Our Challenge



- グリーンビルディング化の流れを受け、カーボンフットプリントの少ない建材へのニーズが高まり、当社の高付加価値製品である**Lowカーボンガラス\***の**需要が拡大**
- ベルギーでの生産に続き、フランスでもLowカーボンガラスの生産を開始



\*AGC Glass Europe S.A.が生産するフロート板ガラス、PlanibelのEPD(Environmental Product Declaration)値(INIESデータベース)と比較し、カーボンフットプリントを40%以上削減した製品

©AGC Inc.

21

次のページ、お願いします。これは先ほどお話ししましたけれども、こうした動きに連携する形で、欧州では、特にグリーンビルディングといった建物が増えてきております。その中に、カーボンフットプリントの少ない建材、ガラスといったニーズが出てきております。

AGCグループとしては、まずはベルギーでLowカーボンガラスというのを始めて、今後フランスでも、このLowカーボンガラスの生産を開始することを予定しております。

📈 機会

## EV・FCV市場拡大に伴う高付加価値品の需要拡大

AGC  
Your Dreams, Our Challenge

- カーボン・ネットゼロ社会に向けEV・FCV市場が拡大し、付加価値の高い**自動車用ガラス等の需要が増加**

EV・FCV市場拡大に伴う高付加価値品(例)



©AGC Inc.

22

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

SCRIPTS  
Asia's Meetings, Globally



次のページをお願いします。同じく機会ですけれども、AGC グループの建築用ガラス以外では、このEV、電気自動車、それからFCV市場が拡大することによって、AGC グループの製品が、大きく需要が増加するということを期待しております。

そちらには例が出ております。一つは調光ガラス、車のサンルーフに採用して、ここで光を自動で調節するようなガラス。二つ目が、Low-E ガラスという形で、これは熱を遮熱、断熱するガラスになります。三つ目が、燃料電池車。将来、水素の社会が来たときに普及が期待されています、燃料電池車の電解質ポリマー、こういった製品の採用がこれから増加すると考えておりました、すでにAGC グループでは、こうした市場でのトップでの技術の取り組みをしております。

**📈 機会**  
**次世代冷媒・溶剤市場の拡大** **AGC**  
Your Dreams, Our Challenge



カーボン・ネットゼロ社会に向け、25年以降、既存冷媒から地球温暖化係数(GWP\*)の小さい環境対応型次世代新冷媒・溶剤への転換が加速



TCFD分析においても、低GWP冷媒市場は30年頃に22年の約3倍に拡大

**ターゲット市場\*\***



\*GWP(Global Warming Potential )とはCO<sub>2</sub>の何倍の温室効果があるかを表す係数 \*\*2020年当社推定 \*\*\*既存品

次のページをお願いします。同じく、AGC グループの化学品、エッセンシャルケミカル、もしくは機能化学といった市場での取り組みになります。

次世代冷媒・溶剤市場ということで、カーボン・ネットゼロ社会に向けて、既存の冷媒、これは地球温暖化係数で言いますと、GWP という指標を使いますが、これがより小さい環境対応型の新冷媒・溶剤への展開が加速しております。

このTCFDの分析におきましても、2030年ごろには、今から3倍ぐらいにこの市場が拡大しているだろうという推定もされております。AGC グループの製品名としては、AMOLEA というものですけれども、この左のほうに、その用途に応じた製品の進捗を紹介させていただいております。

**サポート**

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



この、ターボ式冷凍機用の冷媒につきましては、現在の AGC グループの製品では、この GWP 係数を、現状の冷媒を 1,030 とすると、1 以下ということで、大きく環境対応に貢献できる製品と考えております。

同じく、カーエアコン用の冷媒につきましても、同様な製品を開発し、これを成長させていくということを考えております。

また、家庭・店舗・ビル用冷媒、こちらも幅広い用途があるんですけども、これにつきましても代替可能な領域と考えて、対応できる製品の開発を進めているところでございます。

📌 機会

## 環境負荷を低減する製品（まとめ）

**AGC**  
Your Dreams, Our Challenge

- 製品ライフサイクル全体の環境負荷低減を目指し、製品開発等を推進
- 社会的価値と経済的価値の両立により成長を目指す

ガラス	電子	化学品	セラミックス
<ul style="list-style-type: none"> <li>・フロート板ガラス (リサイクル原料使用製品、薄板化)</li> <li>・Low-E複層ガラス</li> <li>・コーティングガラス</li> <li>・建材一体型太陽電池モジュール</li> <li>・薄板ガラス(化学強化ガラス)</li> <li>・自動車用ガラス</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディスプレイ用ガラス (リサイクル原料使用製品)</li> <li>・太陽電池カバーガラス</li> <li>・光学関連部材</li> <li>・高速通信用部材</li> <li>・高出力LED用ガラス</li> <li>セラミックス基板</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低環境負荷型冷媒・溶剤</li> <li>・燃料電池用部材</li> <li>・フッ素樹脂</li> <li>・塗料用フッ素樹脂</li> <li>・太陽電池保護用フッ素樹脂フィルム</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐火物 (リサイクル原料使用製品)</li> <li>・超断熱セラミックス炉壁</li> <li>・バイオマス発電ボイラー用耐火物・エンジニアリング</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>

©AGC Inc.

24

次のページ、お願いします。これまでお話しさせていただいた内容が、24 ページ目、こうした製品を AGC グループでは、幅広く進めております。

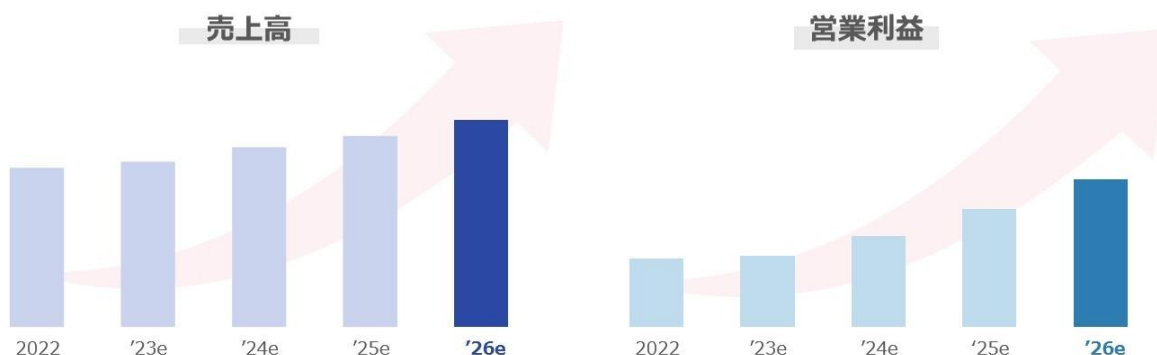
この ESG 中の E のところですね。TCFD の分析でも、AGC グループにとって社会的価値と経済的価値の両立ができる成長、これがわれわれの目指すところになります。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

- 2023年の売上高\*の約**11%**、営業利益\*は約**13%**となる見通し
- 市場拡大の機会を捉え、事業成長を実現



\*連結ベース

©AGC Inc.

25

25 ページをお願いします。具体的にどれくらいのインパクトがあるかということですが、まず、環境・エネルギー分野に絞って言いますと、2023 年では、売上高の約 11%、営業利益ベースでは約 13%になる見通しです。

先ほどの商品をご紹介させていただきましたが、省エネの断熱ガラス、それから化学品の次世代冷媒といった製品を中心に、今後、中長期的に、売上高と営業利益を成長させていけると考えております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

# 気候変動対応全体への今後の投資計画

- 気候変動対応に向け、2026年までの6年間で1,200億円\*以上投資



\*R&D費用は含まず

©AGC Inc.

26

次のページをお願いします。こうした取り組みに関しまして、CO<sub>2</sub>、GHG削減の、当然ながら開発への投資、それから、こうした削減に貢献する製品の拡販のための投資を合わせて、2026年に向けて、2021年から1,200億円以上の投資を計画しております。

本日は、ESGという枠組みで、Eのところを中心にご説明させていただいております。サステナビリティ全般という意味でいきますと、AGCグループはこの環境E以外にも、医薬品の中間体の事業であるライフサイエンス、それからエッセンシャルケミカルにある、次亜塩素酸ソーダ、上水道の殺菌といった、いわゆるサステナビリティの社会に貢献する商品が数多くあります。

こういった商品も含めて、サステナビリティの社会の推進、それからAGCグループの経済的成長に結び付けていくということを、AGCグループとして目指しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

社外の評価：  
CDP 気候変動分野「Aリスト」に選定、SBT認定 取得

- 先進的な取り組みと積極的な情報開示が高く評価され、CDP2022気候変動分野で「Aリスト」に選定
- 2022年12月にSBT\*認定を取得

<CDP気候変動分野評価>



<SBT認定書>



\*Science Based Targets, 科学的根拠に基づき目標

©AGC Inc.

27

次のページをお願いします。この気候変動分野に関しましては、CDP、2022年の気候変動分野でのAリストに選定いただいております、昨年12月には、SBT認定も取得をしております。

「人財」のAGC

- 一人ひとりが、持てる仕事能力を最大限に発揮し、個々人の総和が強い組織をつくりだし、事業戦略や組織目標が実現され、会社と個々人の成長を生み出している



©AGC Inc.

29

それでは、こうした Environment の活動を支えていく、併せて Social の S の部分をご説明します。

サポート

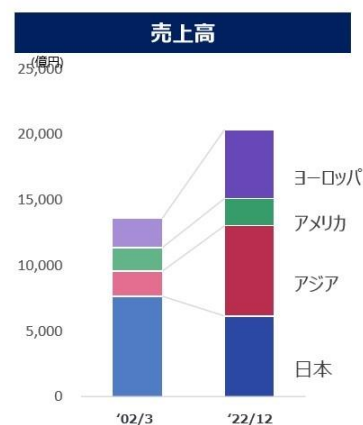
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

AGC グループは、人財の AGC ということで、持てる力を個々人が最大限に発揮して、その結果として強い組織をつくり出し、先ほどのような事業戦略や組織目標を実現するということを目指しており、これを AGC グループの企業文化と考えております。

## グローバルに多様な人財が集結



- グローバルなカンパニー制導入前の2002年3月末と比べ、人財が多様化
- 事業ポートフォリオ戦略に応じ各地域に多様な人財を配置



©AGC Inc.

30

いくつか例をご紹介します。次のページ、30 ページをお願いします。人財の AGC としては、グローバルに多様な人財が集結しているということが、AGC グループの強みと考えております。

左の絵が従業員の数の変化になります。2002 年から 2022 年に向けて、こうした、特に日本以外のところでのグループの従業員が増えていると。

同様に、右側が売上高ですが、これと連携する形で、日本以外の売上を順調に伸ばしてきているという進展になっております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ご参考：

## 日欧米の精鋭が集結して立ち上げたブラジル拠点



- 初めて本格的な南米進出を目指したAGCガラスブラジル社の立ち上げプロジェクトでは、イタリア・フランス・チェコ・ベルギー・日本をはじめ、**13か国から優れたエンジニアが集結し、Oneチームで立ち上げることに成功**



©AGC Inc.

31

この具体例につきまして、いくつか次のページでご説明させていただきます。31 ページ目、お願いします。これは、建築用ガラス、自動車用ガラスのブラジル拠点についてのご説明になります。

AGC グループとして、初めて本格的な南米進出を目指したプロジェクトでございますが、ここにつきましては、こちらに記載のとおり、イタリア・フランス・チェコ・ベルギー・日本、13 国から優れたエンジニア、チームが集結して、One チームでこのプロジェクトを立ち上げております。今のところ、順調にブラジルでの事業が拡大できている状況でございます。

### サポート

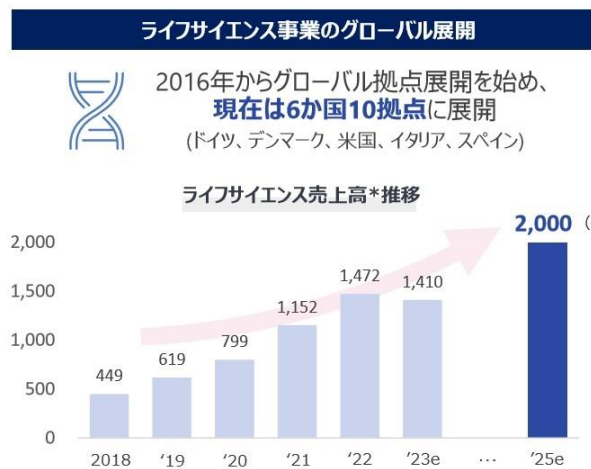
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



# グローバルな拠点展開力

- 創業以来、積極的に進めてきた海外展開で培ったノウハウを活かし、**ライフサイエンス事業のグローバル拠点展開を推進し、事業を拡大**

グローバル展開のあゆみ		
<b>30を超える国と地域に展開</b>		
1956	インド	ガラス製造会社を設立
1964	タイ	板ガラス市場に参入
1972	インドネシア	ガラス事業を開始
1981	ベルギー	欧州板ガラス市場に本格参入
1985	北米	自動車ガラス事業に本格参入
1992	中国	板ガラス事業を展開
2000	台湾	液晶用ガラス基板の生産を開始
2003	韓国	PDP用ガラスの生産開始
2004	ハンガリー	自動車ガラス事業を開始
2012	ドイツ	ガラス事業提携
2013	ブラジル	ガラス市場に参入
2014	ベトナム	化学品事業を展開
2016	メキシコ	自動車ガラス事業の展開
2019	モロッコ	自動車ガラス事業の展開



\*戦略事業としてのライフサイエンス売上高

©AGC Inc.

32

それから、次のページをお願いします。

これは左が、AGC グループのグローバル展開のあゆみになります。1956年のインドへの進出からスタートして、30を超える国と地域に展開をしております。

直近では、右のほうにあるライフサイエンス事業がグローバルに大きく成長しておりまして、日本をはじめとして、現在は6か国10拠点に展開し、事業、これは売上ですけれども、順調に成長しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



ご参考：

## ライフサイエンスにおける技術移管プロジェクト

**AGC**  
Your Dreams, Our Challenge

- コペンハーゲン拠点の長年にわたる動物細胞事業の実績により蓄積されたノウハウを、積極的な人財や技術の交流などを通じて千葉拠点に展開
- 統合的なグローバル運営の下、どの拠点でも高品質なサービスを提供できる体制を強みに、事業の更なる成長につなげる



コペンハーゲン  
(デンマーク)



千葉  
(日本)



©AGC Inc.

33

このライフサイエンス事業につきましても、こうしたグローバルな人財でのプロジェクトが進んでおりますので、次のページでご紹介します。33 ページ目をお願いします。

これは、先ほどお話ししましたライフサイエンス事業の中の、医薬品中間体バイオテクノロジー事業の受託製造、われわれ CDMO と呼んでいますけれども、この事業の技術移管プロジェクトになります。

これにつきましては、AGC グループのコペンハーゲンの長年にわたる動物細胞事業、この技術、ノウハウを、今度は日本の千葉拠点に展開するということです。AGC グループのこのバイオ、CDMO 事業の強みである日本、それからアメリカ、欧州、3 局での高度な CDMO のサービス、技術の展開といったことにつなげて、全体での成長を目指しております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

**SCRIPTS**  
Asia's Meetings, Globally

ご参考：  
戦略事業の伸長

■ グローバル経営基盤と多様な人財の活躍が戦略事業の伸長を支える



次のページをお願いします。今ご説明させていただいた、ライフサイエンスが含まれている戦略事業ですけれども、同様に、戦略事業の一つであるエレクトロニクス、これから成長期待するモビリティといった事業につきましては、まさにグローバルな基盤と多様な人財のシナジーによって事業が成長していくと、AGCグループは考えております。

23年は、一時的にちょっと足踏みもありますけれども、25年、こういった大きな目標に進展していけると考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

## サプライチェーンにおける人権デューデリジェンスへの取り組み



- AGCグループは責任ある鉱物調達と社会・環境に配慮したサプライチェーンを目指す購買取引基本方針のもと調達活動を実施
- AGCグループ購買取引基本方針の準拠に関するアンケートを2020年から開始
- **順次アンケート対象を拡大**し、サプライチェーン全体でのサステナビリティ向上を目指す



©AGC Inc.

36

次のページをお願いします。Social のところで、次はサプライチェーンの人権のところについて、ご説明させていただきます。36 ページ目になります。

AGC グループは各事業で、原料から販売まで、長いサプライチェーンを持っております。ここでの人権デューデリジェンスに今、取り組んでおりまして、こちらにあるとおり、AGC グループの購買取引基本方針に準拠する形でのアンケートを 2020 年から開始し、順次、対象を拡大して、サプライチェーン全体でのサステナビリティ向上を目指しております。

現在、右のほうにアンケートの平均スコアという形で評価しておりますけれども、少しずつ改善が進んでいると考えております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## サステナビリティのガバナンス体制

- 取締役会による監督の下、サステナビリティ委員会は経営会議と同等に位置づけられ、環境活動を含むサステナビリティ関連事項の執行についての決定およびモニタリングの責任を有す
- 気候変動問題への対応は、気候変動対応会議でグローバルかつ事業横断的に社内部門が連携



©AGC Inc.

38

それでは ESG の取り組みの今日のご説明、最後の G のところになりますが、Governance になります。38 ページ目、お願いします。

AGC グループは、サステナビリティ経営を、経営の課題の大きな一つと捉えております。従いまして、この取締役会の監督の下、サステナビリティ委員会を経営会議と同等の最重要会議と位置付けて、環境活動を含むサステナビリティ関連の執行についての決定、モニタリングの責任をここで持っております。

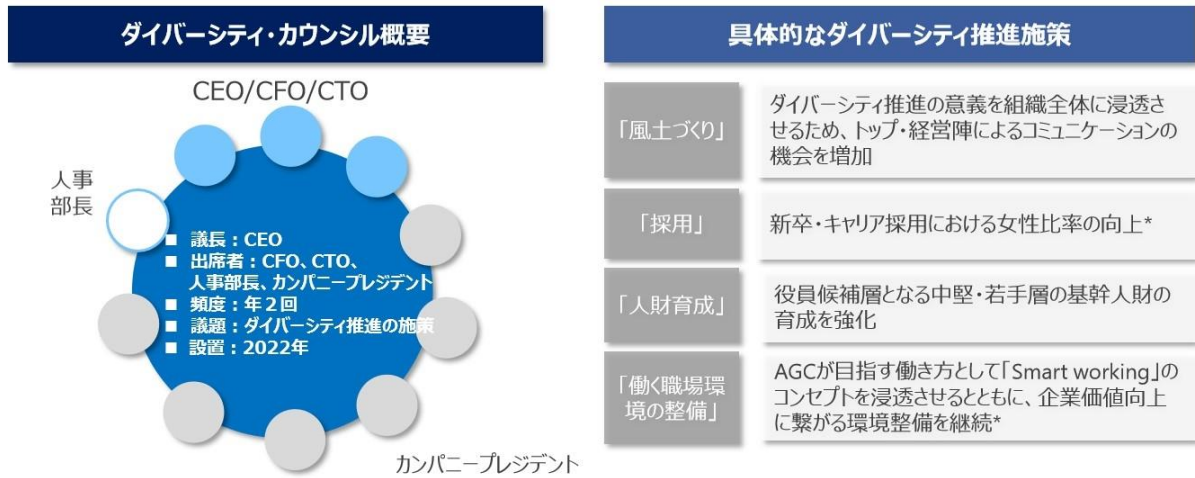
ここのサステナビリティ委員会では、CEO を委員長として、各部門全トップが参加する形で、グループ全体の方針、進捗をモニターするということを進めております。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

# ダイバーシティ・カウンスル

- 多様な人財が、個々人の能力を最大限に活かす環境を整備するため、2022年にダイバーシティ・カウンスルを設置。部門横断的に情報を共有し、ダイバーシティ推進施策を加速



\*AGC単体での取り組み

©AGC Inc.

39

次のページをお願いします。このサステナビリティの一つである、多様な人財、ダイバーシティの取り組みにつきましては、2022年にダイバーシティ・カウンスルを設置し、部門横断的に情報を共有することで、ダイバーシティ推進施策を加速しております。

このダイバーシティ・カウンスルも同様に、執行側の経営トップ、議長を CEO としまして、各部門のトップが全員参加する形で、ダイバーシティの推進施策を進めているということになります。

## AGCブランドステートメント：

易きになじまず難きにつく  
人を信ずる心が人を動かす  
世界に冠たる自社技術の確立を  
開発成功の鍵は使命感にあり

AGCは、この創業の精神を礎に、  
お客様とゆるぎない信頼関係を築きながら、  
独自の素材とソリューションで、  
時代のトップランナー達を支えてきました。

私たちはこれからも、互いの知見や技術を掛け合わせ、  
人々の想いの先、夢の実現に挑んでいきます。

# Your Dreams, Our Challenge

©AGC Inc.

40

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

40 ページをお願いします。これで私のご説明を終わらせていただきますけれども、AGC グループは、ESG といった取り組みを中心にサステナビリティ経営を推進するというのを、中期経営計画の一つの柱にしております。

過去、創業以来、AGC グループは、社会と一緒にあゆむ、その結果として経済的な成長があると考えておりますので、それをわれわれとしては、これからも続けていくということを考えております。

私からの説明は以上になります。

小川：ありがとうございました。

[了]

---

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com